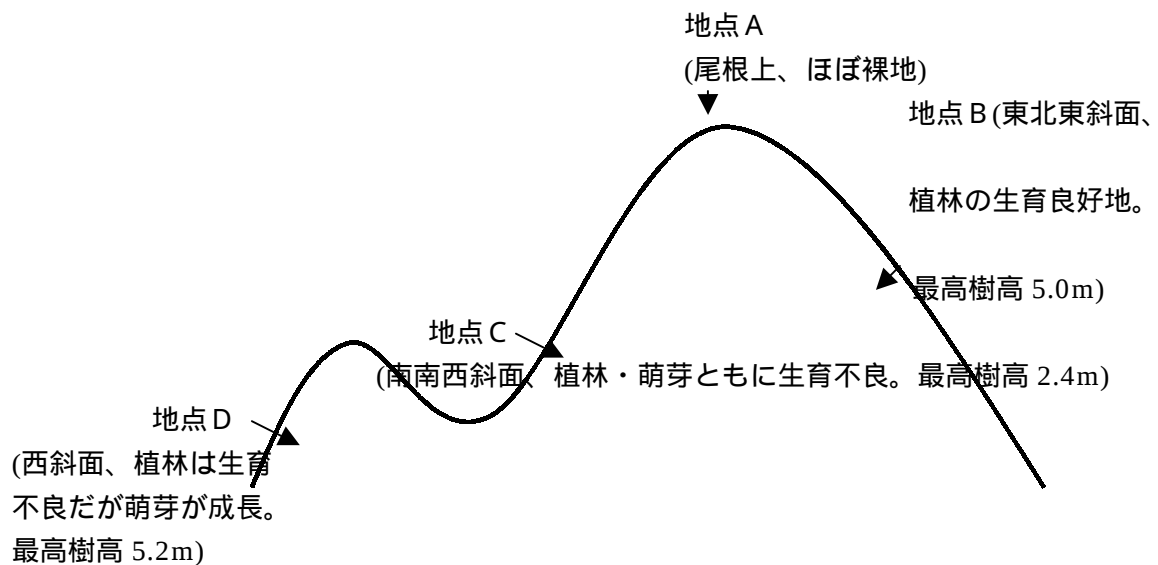


樹木生育障害要因の検討

2002 年 12 月及び 2003 年 2 月の 3 日間、トラストサルン釧路の塘路 64 地区（約 50ha）で調査を実施。当該地では 1995 年頃シラカバの一斉植林が行われている。

調査項目：微気象（気温、風向風力、積雪量）、土壤凍結深度、土壤の性状、食害状況

（１）調査地点（別添地図参照）とその概況

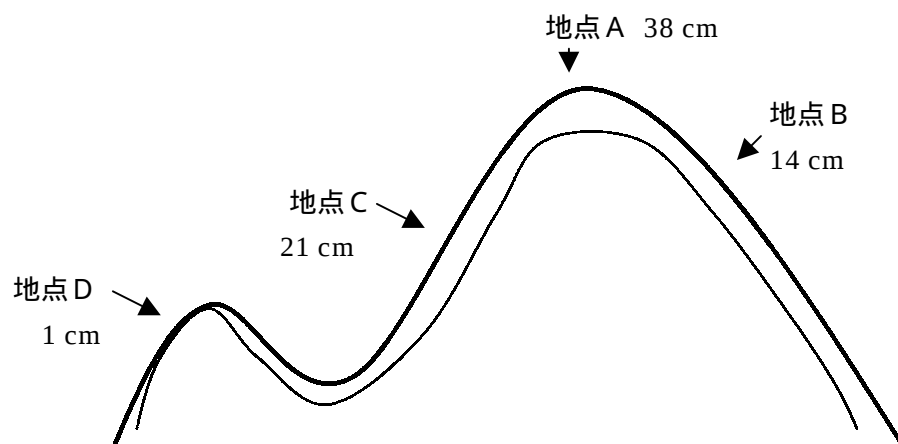


（２）気象要因

* 地点による気温の違いは認められなかった。周辺一帯の風衝樹形の観察から、生育障害要因としては重要ではないと考えられる。

（３）土壤凍結要因

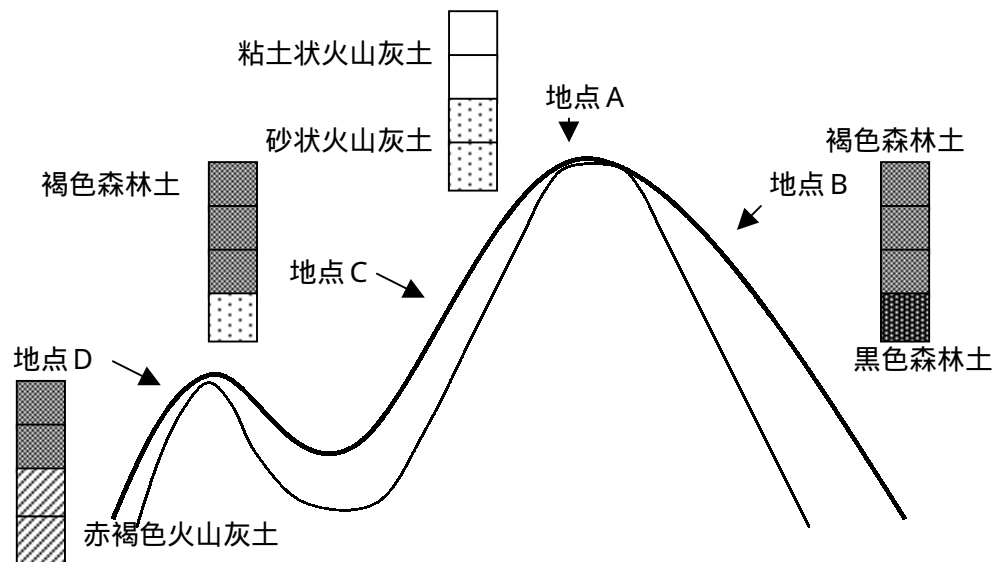
（注）各地点の数値は、土壤凍結深度を表す。



* 土壌凍結深度と樹木の生育との相関関係は、今回の調査だけでは評価は困難。凍上による植樹苗の活着不良や枯死について、今後さらに調査が必要と考えられる。

(4) 土壌要因

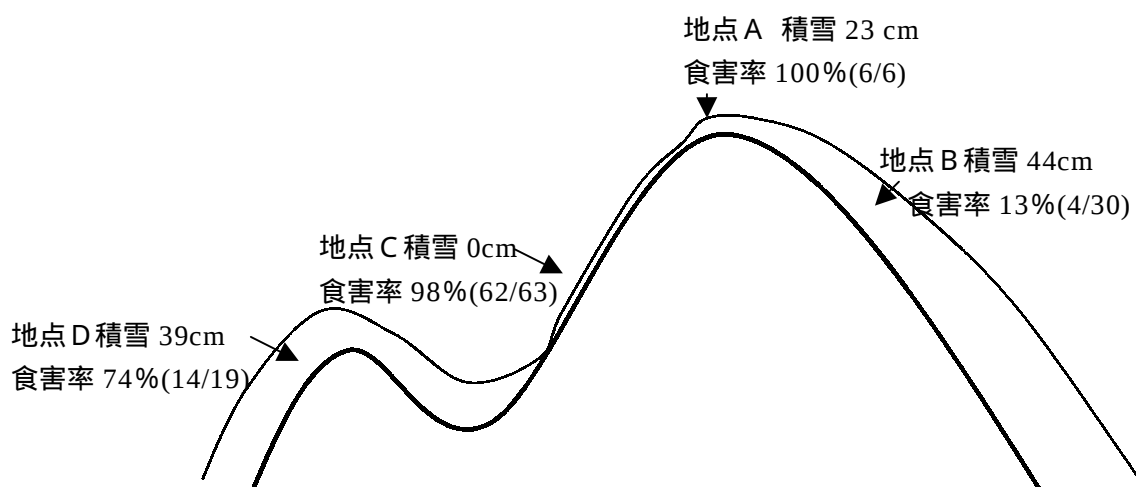
(注) 方形図は上から、表土、20cm、40cm、60cm の土壌を表す。



* 尾根筋ではもともと植林に適した土壌が薄く、作業道の開削により表土と言えるものが存在しない。貧栄養や過度の乾燥が生育を阻害している。植樹種の検討や、グランドカバーを考える必要がある。

(5) エゾシカ食害要因

(注) 食害率は 5m コドラートを設定して算出した。



* 積雪の少ない南向き斜面にシカの食害が集中していた。このような場所では、食害防除

対策の必要がある。

→対象地の生育阻害要因を分析し、個別に対応方針を検討する必要
凍上被害及びミヤコザサとの競合に関しては、今後の検討課題